

樽前山

1 概況（平成 14 年 10 月）

今期間、顕著な地震増加などはありませんでした。1996 年以降地震活動が活発化しており、A 火口をはじめドーム周辺では熱的活動が活発な状態となっていることから、火山活動の推移に注意が必要です。なお、全磁力観測では昨年から今年にかけて山体内部の熱的活動が更に活発化したようなデータは認められませんでした。

2 噴煙活動の状況

A 火口、B 噴気孔群および E 火口の噴煙の高さは概ね 100m 以下で推移しました。いずれも勢いは弱く通常の活動の範囲です。

3 地震活動の状況

地震回数は 1 日あたり 0～5 回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが従来と変わらず山頂火口原の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されていません。

月別地震・微動回数（C 点）

平成 13～14 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
地震回数	56	108	53	65	61	41	99	74	50	40	25	36
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

5 調査観測の結果

10 月 4～5 日、9～10 日に全磁力観測*などを実施しましたが、昨年から今年にかけて山体内部で熱的活動が活発化したようなデータは認められませんでした。

【A 火口】

透明～白色の噴煙が低い音とともに噴出しています。火口南側 30m の定点から赤外放射温度計**で測定した火口の温度は 154 で特に変化はありません（今年 9 月 157）。また火口東側から測定した温度は 390 で、引き続き高温であることを確認しました。

【その他】

目視観測では各火口、地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。

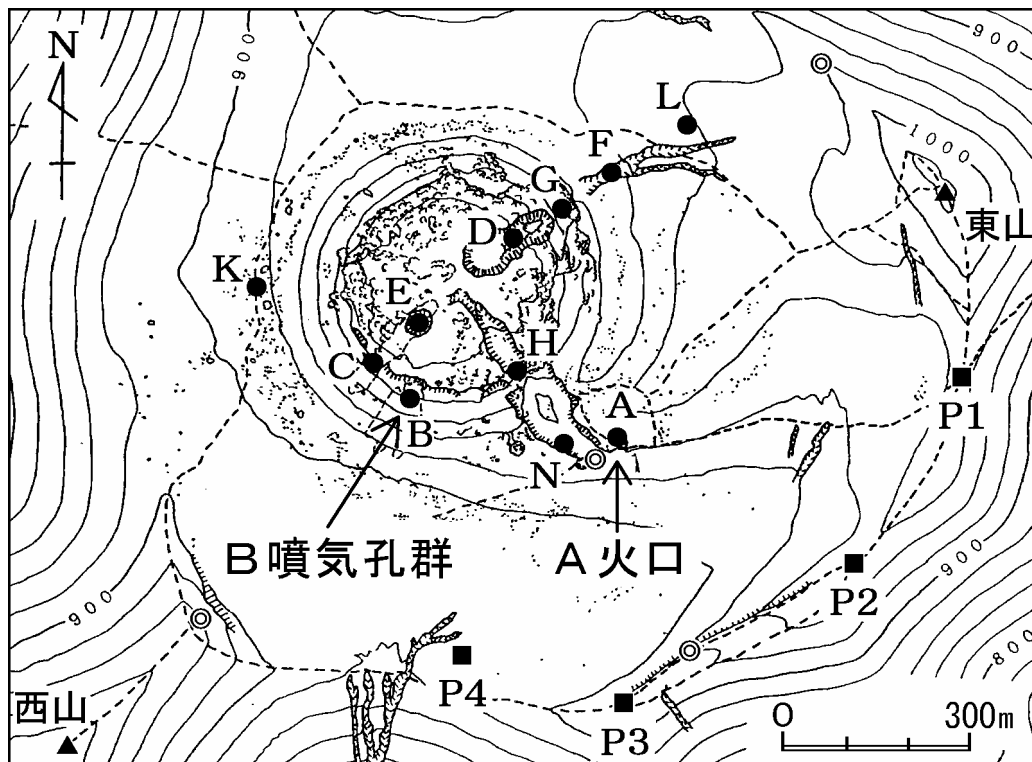
6 上空からの観測結果

北海道開発局の協力により 10 月 12 日に実施した上空からの観測では、雲のため詳細な状況を把握できませんでした。

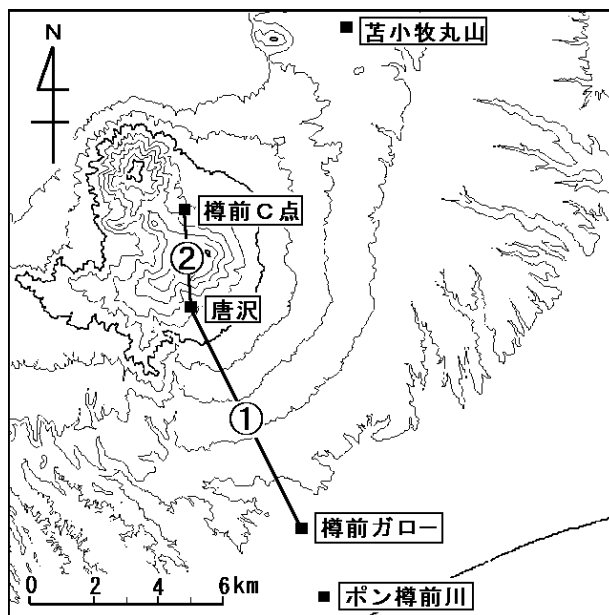
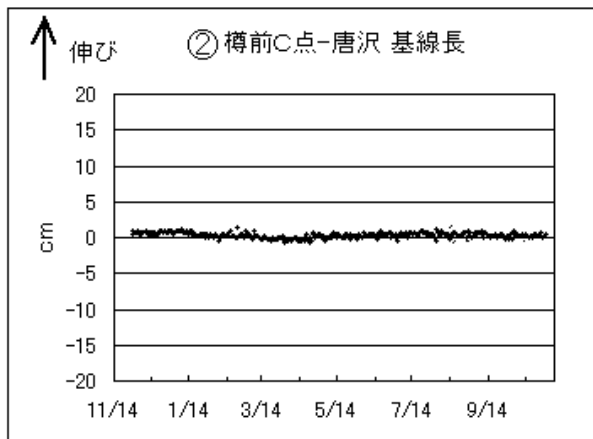
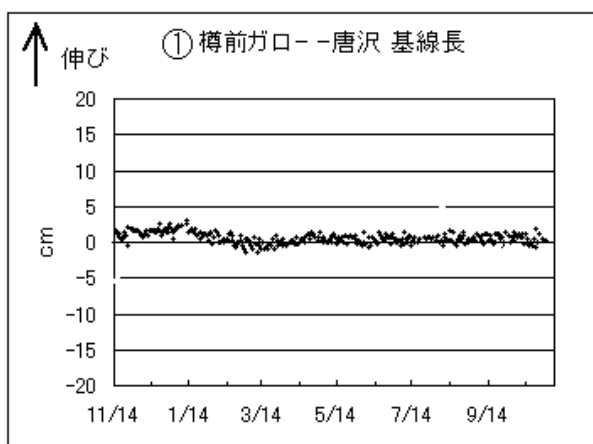
* 全磁力観測についての詳細は 7 月の防災メモをご覧ください。

** 赤外放射温度計

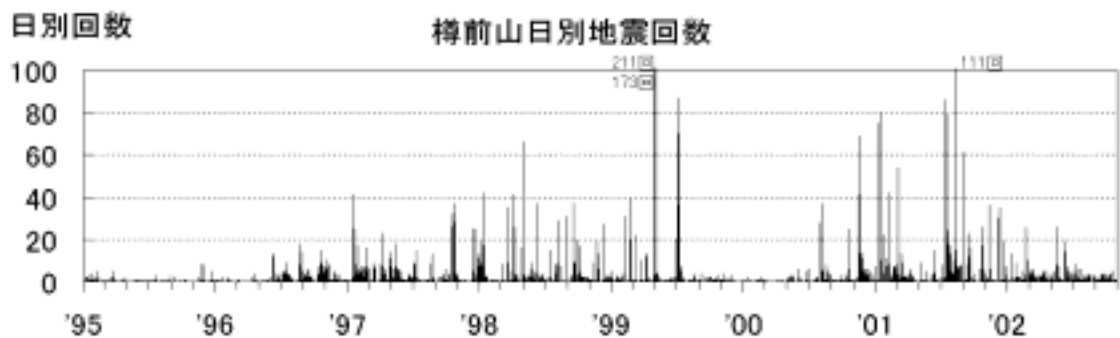
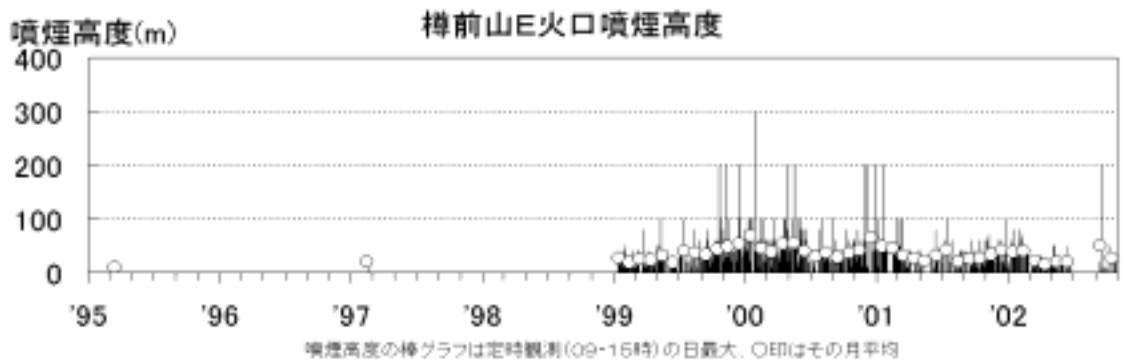
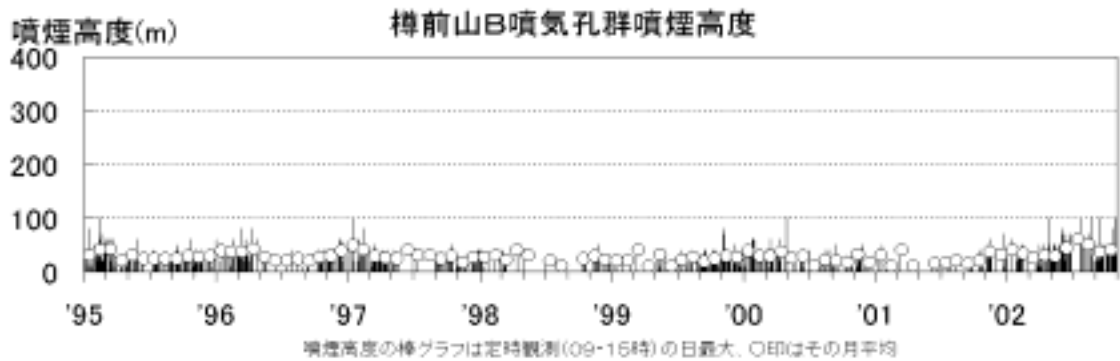
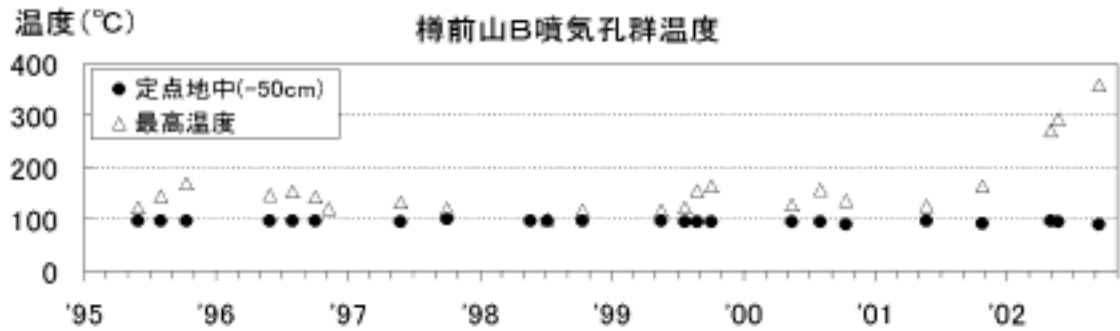
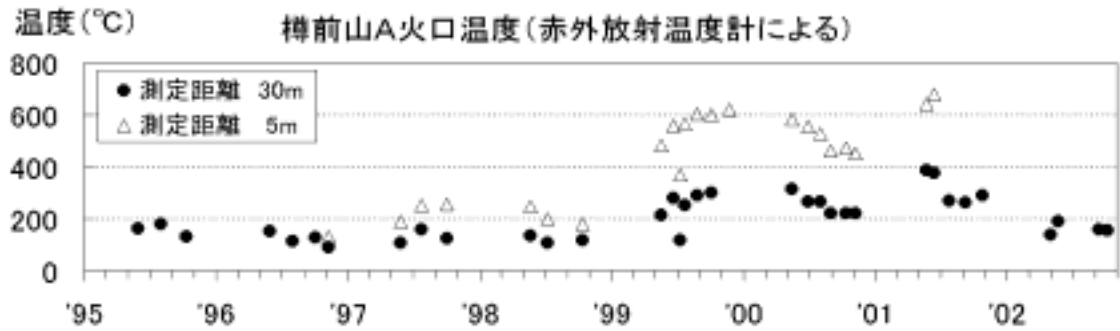
物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などではっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。



樽前山山頂周辺図



樽前山基線長変化(2000年11月14日~2002年10月31日)



樽前山火山活動経過図(1995年1月1日~2002年10月31日)